

社会の変化に対応できる力とは
—一生勉強、一生青春—

公益社団法人栃木県経済同友会
会 員 林 明 夫

Q 1 : 自己紹介を兼ねて中学や高校、大学のときに好きだったことばを教えてください。

A : (1)「学問に王道なし」(ユークリッド)

There is no royal road to learning.

(2)「練習で泣いて試合で笑え」(椎名弘先生)

(3)「ブルドッグ魂、食いついたら離すな」(岡田忠治先生)

(4)「一所懸命」一つの所で命を懸けるくらい熱心にものごとに取り組もう。
(足利高校マラソン大会の合い言葉)

(5)「スポーツの3つの宝。練習は不可能を可能にする、フェアプレイ、良き友」
(小泉信三先生)

Q 2 : 現在の仕事や活動を紹介してください。

A : (1)開倫塾 塾長。株式会社 開倫塾代表取締役社長

(2)学校法人 有朋学園 有朋高等学院 理事長(福島市)

(3)宇都宮大学大学院工学研究科 客員教授

(4)マニー株式会社(手術用縫合針製造) 顧問、元社外取締役(2004～2010年)
(本社：宇都宮市。現地法人：ハノイ、ヤンゴン、ビエンチャン)

(5)社会福祉法人 両崖福祉会 特別養護老人ホーム 清明苑 理事(足利市)

(6)開倫ユネスコ協会 会長

(7)CRT 栃木放送「開倫塾の時間」毎週土曜日 9:15～9:25 担当、この3月で30年目に入ります。

Q 3 : これからの社会はどのような社会ですか。そこで求められる能力とはどのような能力ですか

A : (1) 知識が基盤となった社会(知識基盤社会)です。

① 知識・情報・技術を用いる能力が求められます。

② コンピュータ(ワード・エクセル)は必須です。

(2) グローバル化した社会(グローバル化社会)です。

① 多様な集団で交流する能力が求められます。

② 英語(「読む」、「聞く」、「話す」、「書く」の4技能)によるコミュニケーション能力は欠かせません。

(3) 課題が山のように高く積もっている社会(課題山積社会)です。

・ 自律的に活動する能力が求められます。



Q 4 : それらの力を身に着けるにはどうしたらよいのですか。

A : (1) 「読書による思慮(しりよ)深さ」を身に着けること

・ 「書き抜き読書ノート」を

(2) 「新聞を読み、自分で考える力、批判的思考(クリティカルシンキング)能力」を身に着けること

・ 「スクラップブック」を

(3) 「学び方を学ぶ能力」を身に着けること

・ 「効果の上がる学習の方法」を身に着けること



Q 5 : 効果の上がる家庭学習の方法とは何ですか。

A : (1) 「理解」(うんなるほどとよくわかこと)

① よくわからないことがあったら、気持ちが悪いと思い、「辞書を用いて学ぶ」こと。

* 「辞書」で調べたことばの意味は、ノートに書き写し、その場で覚える

② 授業のノートを整理する

* 「授業中」必要なことは「ノート」に取る

— 授業中に必要なことについて「ノート」が取れるのは「能力」

③ 何がよくわからないのかをはっきりさせて授業に臨むこと

(2) 授業や家庭学習で「理解」したことを「身に着ける」(定着、ていちゃく)

① 「音読練習」

* スラスラよく読めるようになるまで大きな声を出して読む
大切なことは、音読しながら正確に覚える

② 「書き取り練習」

* 「楷書(かいしょ、教科書の書体)」で正確に書けるまでにする
* 英語のスペリング(綴り字)も書いて覚える

③ 「計算・問題練習」

* なぜそのような答えになるかが、よく「理解」できたら、計算や問題を見た瞬間に、
パッパッパッと条件反射で正解が出るまで、何回も解いてみる
定着のための3大練習は成績アップ、希望校合格に直結する

(3) 「応用」(「理解」、「定着」したことを役立てることができる)

① 過去に出題された問題(過去問)を5～6年分、5～6回やり直す

* 「間違いノート」「まとめノート」を作成する

② 学校や仕事や社会的活動、日々の生活で役立てることができる

Q 6 : 学校での学習や様々な活動は、世の中に出て役に立つのですか。仕事をするとき役に立つのですか

A : すべて役に立ちます。役に立たないことは1つありません。

(1) 小学校での学習が中学校ですべて役に立っているように、中学校での学習は高校で、高校での学習は大学や短期大学、専門学校、大学院で、また、社会に出てからすべて役に立ちます。

(2) 中学校での教科以外の活動も、上の学校で、また、社会に出てからすべて役に立ちます。役に立たないことは1つありません。

(3) 例えば、お客様の問題や課題を解決するために、中学校での学習や教科以外の活動はすべて役に立ちます。

(4) ですから、中学校や高校などの学校の教科書や教材、辞書は捨てないで、一生身近に置いて、時々読み返すことをお勧めします。

Q 7 : 仕事とは何ですか。人は何のために働くのですか。

A : (1) 仕事とは、お客様の問題を題を解決することで、お客様のお役にたつこと。

同じような問題を抱える人が世の中にはたくさんいらっしゃいます。

お客様の問題を解決することは、社会のお役にたつことでもあります。

まとめていうと、仕事とは、お客様の問題を解決することで、お客様のお役にたつこと、社会のお役にたつことです。

(2)人が働くのは、

- ①お客様のお役に立つため、社会のお役にたつため。
- ②生活できるだけの収入を得るため。
- ③自己実現。よく生きるため。

Q 8 : 中学校時代に身に付けておいたほうがよいことは何ですか。

A : (1)「学習の仕方」

- ①辞書の使い方 ②授業の受け方 ③「ノート」の取り方、活用の仕方
- ④「音読練習」「書き取り練習」「計算・問題練習」の仕方
- ⑤予習の仕方 ⑥テストの受け方

(2)新聞を読み自分で考えるカー「スクラップブック」を一

(3)読書による思慮深さ(しりょぶかさ)―「書き抜き読書ノート」を一

(4)図書室、図書館の利用の仕方

(5)「5S」

- ①整理(せいり・seiri)
- ②清掃(せいそう・seisou)
- ③整頓(せいとん・seiton)
- ④清潔(せいけつ・seiketsu)
- ⑤躰(しつけ・shitsuke)



(6)別の意味での「躰」

- ①美しい立居振舞い(たちいふるまい)
- ②敬語表現を含む言葉遣い(ことばづかい)

Q 9 : 最後に一言どうぞ

A : (1)自分のよさ、家族のよさ、友達のよさ、学校のよさ、湯西川のよさ、栃木のよさ、日本のよさ、アジアのよさなど、よいところを探し出し、ことばに出して表現して認め合い、どんどん伸ばそう

―自分や他人をあまり攻めないこと、みんな仲良く―

(2)「健康第一」―心の健康、身体の健康―

(3)「一生勉強、一生青春」(相田みつを先生)

以上

御清聴ありがとうございました。質問があったら、どんどんしてくださいね。